

図書館史研究会ニュース・レター

第50号 1994年12月25日

研究会事務局

山口研究室

8

弥吉光長さんより、十進分類法採用をめぐる和田萬吉宛のM. デューイ書簡に関する論稿が寄せられましたので掲載します。(編集部)

..... 日本最初のデューイ十進法採用について

弥吉光長

日本ではじめて十進分類法を紹介したのは帝国図書館の西村竹間でその著『図書館管理法』に出ている。しかし、それを実際に採用しようというのではなかった。次が山口県立図書館の分類表で明治30何年かで、漸く40年代に実施されたと思っていた。我々も大正初期図書館講習所で分類法の実習にこの分類表を使わされた。その次が大綱目だけでなく細分まで忠実に真似た間宮商店の森清氏編の日本十進分類法である。

ところが東大の図書館では田中稻城氏が去ってその後任の館長に若い和田万吉が任せられた。

東京大学は分類表が使われず受入順で大分けにするやり方であった。新任の和田は既成の分類法を熱心に研究し、公共図書館にも使える分類法としてカッ

会費納入のお願い

1994年度会費の納入をお願い致します。同封の振込用紙をご利用下さい。年会費は3,000円です。

ターの展開分類法も考えたが英字で出納手が困ると思ったであろう。当時は閉架式であったから、数字の万国共通なものとして、デューイの十進分類法を採用しようとしたが、西洋本位で東洋の部門は展開されていない。そのまま使うつもりかどうかは不明であるが、大胆な改造はせず、デューイの原本を東洋部門を詳しく展開させようとしたらしい。その返事が来て、次のようにデューイの意見が述べられている。日付けは1904年（明治37年）2月28日である。

拝啓 私は貴兄が我が十進分類法を貴館に採用したい希望を寄せられたことを喜びます。我々は現在同表の慎重な改訂と拡大にとりかかっています。それは本表を貴館に採用したいための細区分とともに他の国への全般的プランを日本と同様な程度に行うべきものとすべきであって、更に貴館に採用に感ずる他の用件も同じく考えます。数か月後には帰国の領土が増すことをすべてのアメリカ人の日本に対する友情が増すということをここにのべます。我等の同情が極めて強ければ、兄等は速やかに成功をそこに得るでしょう。

メルヴィル・デューイ

この手紙は同年5月28日に東京のスタンプがある。唯一回の通信しかないが、和田家にも見当たらないそうである。

東大でも検討を新版にたいして行ったが、不満のため遂に採用しなかった。大震災には和田氏はアメリカに援助の手紙をだして、大量の寄贈書が各国から集まったのであった。

後年東大は和洋中国別に八分法ですましたようであるが、ついに十進分類法は成功せず、森清の日本十進分類法を待たねばならなかった。国立国会図書館はLCによりながら社会科学を中心に政治部門を先立てた分類表を作った。されは日本書をコンピュータに用いるためであったが、洋書にも適用し、大図書館で用いるものもあり、独自の用法のものもある。原本は国立国会図書館に寄贈され、図書館研究室に飾られている。

【運営委員会報告】

1. 会勢(94・12・20 現在)

会員数 131名(94年度入会 3名、退会 3名)

2. 石井敦先生古稀記念事業

95年 9月刊行に向けて記念論集『転換期における図書館の歴史と課題』の編集が進められている。原稿もほぼ集まった。記念事業賛同人も現在 500口を越えた。95年 9月に、記念シンポジウム(図書館史研究会と共催)と出版パーティーを行う予定。

3. 95年度図書館史を考えるセミナー

95年 9月中旬に東京で開催する。石井敦先生古稀記念事業会と共催で、記念シンポジウムと研究発表を行う。担当：小川徹、小黒浩司

4. この間の研究会活動について

ニュース・レターの発行や会費徴収の遅れ、図書館史セミナーの不開催等に見られるように、この間の研究会活動に停滞が生じています。この件について運営委員会では、研究会のあり方、運営体制、機関誌の編集発行体制もふくめ議論がなされました。

出された意見としては、

- ・研究会が発足してすでに12年を経て曲がり角にさしかかっている。研究会の方向性を再度検討する必要があるはしないか。
- ・個人に相当負担がかかるため、機動的で集団的な運営体制(事務局・編集委員会)を作る必要がある。
- ・ただその際、研究会が12年継続してきたこと、130人以上の会員がいることは大きな研究会の財産である。その土台の上に会の発展・充実の方向性を探ることが大事。
- ・研究会の「申し合せ」あるいは会則のようなものを作っておく必要もある。
- ・来年3月の運営委員会は拡大運営委員会とし、会の方向性、運営体制について広く意見を募る。

【1994年度会計報告】

◎収入の部

費目	金額	説明
会費	27,000	93年度会費 3000*6 94年度会費 3000*2 95年度会費 3000*1
利息	2,479	
前年度繰越	365,180	
合計	394,659	

◎支出の部

費目	金額	説明
図書館史研究10号	145,440	@1,440 * 101 (送料含む)
同 9号	3,570	@1,190 * 3 (送料含む)
通信費	3,590	
次年度繰越金	242,059	
合計	394,659	

『図書館史研究』原稿募集

『図書館史研究』編集委員会では、会員の皆さんの意欲的な論稿を募集しています。問い合わせは小黒浩司 まで